

TruPhase の活用(7) —音源の位相確認(7)—

1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(6)に引き続き CD の位相確認を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(6)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、[音源の位相チェック実験\(27\)](#)で使用したバッハのヴァイオリンの作品で下記のとおりです。

DECCA UCCD-9823/24

J.S.Bach Sonatas & Partitas
アルチュール・グルミヨー

Deutsche Grammophon UCCG-9719/20

J.S.Bach Sonatas & Partitas
ヘンリク・シェリング

Deutsche Grammophon UCCG-3352/2

J.S.Bach Sonatas & Partitas
ヘンリク・シェリング

Deutsche Schallplatten TKKC 70027

J.S.Bach Sonatas & Partitas
カール・ズスケ

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無し

で聴いていきます。

グルミヨー盤は、位相反転させますと、定位がしっかりして音の焦点があってきて、グルミヨーの艶のある音色が聴けます。一層反転させないと定位が曖昧で音像が広がってきます。

Deutsche Grammophon UCCG-9719/20 のシェリング盤は、位相反転させますと、定位がしっかりし音の焦点があってきて、オーソドックスな演奏スタイルであることが分ります。一層反転させないと定位が曖昧で音像が広がってきます。

Deutsche Grammophon UCCG-3352/2 のシェリング盤は、UCCG-9719/20 のシェリング盤と同様の結果になりました。演奏も音質的にも同等のようです。

ズスケ盤は、位相反転させますと、定位がしっかりして音の焦点があってきて、ズスケの落ち着いた透明感のある音色が聴けます。

今回はいずれも巨匠の盤ですが、位相を合わせると、それぞれの個性ある演奏の把握が容易になってきます。

4. まとめ

TruPhase での位相反転と Brooklyn DAC+での位相反転の結果は、音源の位相チェック実験(27)と同様の傾向になることが分りました。

以上